



12:00

状況が沈静化
災害対策本部解散

降水量の減少と被害状況の確認ができたことで、第4回会議をもって本部を解散。鳴野町長から幹部職員へ対応への感謝と引き続き警戒を忘れないことが伝えられました。



7/7
09:30

残る豪雨の爪跡
復旧作業開始

全ての警報が解除されたこととともない、被害状況の確認と復旧作業を開始。水路や道路を中心に通行の妨げとなる土砂や草木の撤去を各地域で対処しました。



19:13

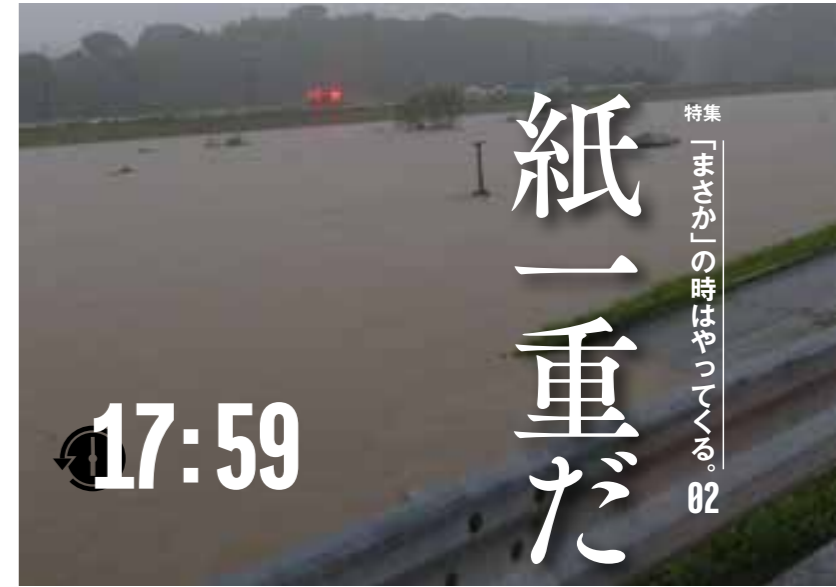
中元寺川沿いで
最大級の警戒

中元寺川では堤防の限界付近まで増水。観測史上最大の雨量を記録した添田町の陣屋ダムは限界を迎え、下流の中元寺川への放水が警告されていました。降水量の減少で中止されましたが、危機は目前まで迫っていました。



全域に避難勧告
10避難所を開設

強い雨はおさまりを見せず、町初の避難勧告の発令が決定。町内10か所の避難所を急ぎよ開設するなど、緊急時の対応に追われました。



17:59

紙一重だった危機

特集 「まさか」の時はやってくる。 02

危険の足音は間近に迫っていました。限界だった陣屋ダムの全部放水通知。全職員は寝ずに待機し、備えました。

未

曾有の豪雨でも死者や建物の倒壊など大きな被害はなかった福智町。しかしその実態は事前の備えや幸運が重なった紙一重のものだった。近年行われてきた国土交通省の彦山川護岸工事や氾濫直前での雨量の減少など、多くの要素が重なったことで被害は最小限に食い止められたのです。

降雨時、最大級の警戒を呼び掛ける避難指示が発令された中元寺川上流では、限界を迎えた陣屋ダムの全部放水が通知されていました。もし放水されていたら、すでに堤防付近まで増水していた中元寺川が深夜に氾濫し、大きな被害をもたらした可能性もあります。

「もしもさらに深夜に、ダムが全部放水していたら」

今回のような災害が起きたとき、消防や自衛隊、行政などが支援する「公助」に期待する人も多いと思います。しかしその時、問題は各地で同時多発的に起きています。その状況ではすぐに助けを受けられるとは限りません。実際に東日本大震災では役場が被災し、行政機能がマヒした事例もありました。防災は自分で対策をする「自助」が7割を占めるといわれています。「自助」ができてはじめて周りを助ける「共助」ができ、「公助」を待つことができます。自分の身は自分で守ることが防災の根源です。もしものとき、一番に守らなくてはいけないのは自身や周囲の命です。そのためにはただ助けを待つのではなく、状況を判断し行動することも必要。緊急時は家財や車などを諦めなければならぬ時もあります。最優先すべき命を守る。そのための決断が求められます。



自らの「命」を守る、3つの「助」

- 自助 → 自分の力で自分の身を守る 7割
- 共助 → 近隣や地域と協力して身を守る 2割
- 公助 → 国や自治体の支援を受ける 1割

田川地区消防 金田分署
柴田 賢一郎 小隊長



災害時にはまず近くの避難所へ向かうことを考えてください。非常食や貴重品などは持ち出しやすいようまとめておくことで迅速な避難につながります。しかし最優先すべきは命。危険が迫ったときは避難することだけを考え、行動してください。

7/7

12時00分	7時00分	23時45分	19時13分	17時59分	17時20分	17時10分	16時20分	15時50分	15時30分	15時18分	13時57分	13時30分
第4回災害対策本部会議 災害対策本部を解散	第3回災害対策本部会議 職員が復旧作業を開始	第2回対策本部会議 役場全職員が警戒態勢で待機	中元寺川沿いに避難指示 避難所を開設	福智町全域に避難勧告	市場草場地区孤立 田川地区消防署へ救助要請 レスキュー隊が7名を救出	大雨特別警報発表	高尾住宅床下浸水	宝見保育園浸水	対策本部設置	金田地区に避難勧告	町全域に避難準備情報発令	警戒本部設置

7/6 災害対応、2日間の実録



↑ 刻一刻と変化する状況共有を徹底、最速の対応に備えました。